

2021.5.11

化石のロマン（松本市四賀化石館を訪ねて）

1986年（昭和61年）長野県松本市（旧四賀村地区）の保福寺川沿いで釣りをしていた小学5年生が偶然発見した化石がきっかけとなり、世界最古のクジラの全身骨格が掘り起こされ、シガマッコウクジラと名付けられた。この化石には現在のマッコウクジラには無い特徴がある。上顎に生えていたと考えられる強靱な歯の存在だ。このことからカミツキマッコウの異名でも呼ばれ、俊敏で獰猛な肉食のクジラであったことが推察されている。ちなみに現在のマッコウクジラには下顎にしか歯がなく、深海に潜ってイカ類を吸い込んで捕食している。しかし1300万年前のシガマッコウクジラは海面近くで小型のヒゲクジラ類に上下の歯で噛みついて捕食するなど、当時の海の生態系の頂点に君臨していたと考えられている。つまり現在のマッコウクジラとは全く異なる生態のマッコウクジラの存在が化石の発見によって示唆されたのである。

意外なことに「やまぐに」信州にはかつて太平洋と日本海をつなぐフォッサ・マグナの海が広がっていた。活断層として有名な糸魚川―静岡構造線沿いはフォッサ・マグナの海の西端にあたる。1,300万年前、何らかの事情で絶命し深い海の底に横たわったシガマッコウクジラの遺体。通常はバラバラに分解されてしまうところだが海泥が深く覆いかぶさり酸素の供給が遮断され、バラバラにならずそのまま残った。さらに砂や泥が覆い被さって海底に出来た地層が地震等の地殻変動で隆起した。さらに地表に押し出された地層の上を川の水が削り、化石の一部が露出していたものを1,300万年後に釣りに来た小学生に偶然発見された。まさに奇跡としか言いようがない。

松本市内から車で約25分の松本市四賀化石館。コロナ禍とはいえ、感染対策に気を付けながら子供のための春休みイベントをと、3月末に松本の〇〇家と誘い合わせて見学してきた。正直に告白すると「子供のための」は半分方便。ほぼ自分の興味に忠実に計画したと云っていい。学芸員さんによる見学案内を予約したり、ネットで下調べをしたりして指折り数えて当日を待った。大人にとっても久々の遠足だった。

当日、学芸員さんは非常に丁寧に説明してくださった。そして背中を押されるようにして化石館から車で5分ほどの河原に「シガマッコウクジラ発見地」を訪ねた。

河原に露出した泥岩の地層は非常に脆く、手でも簡単に剥がすことが出来た。

泥岩中に貝殻等の化石が含まれているならばキレイに取り出すこともできるだろう。

子供たちも化石館を見学し、併せて発掘地を訪れたことで図鑑の知識や理屈ではなく実体験を通して化石の存在を確信し、化石発見の奇跡に期待が高まったと思われる。

今夏には化石発掘教室も開催される予定で、ぜひ親子で参加したいと願っている。

45歳の少年にも学ぶ楽しみを与えてくれた松本市四賀化石館と学芸員の小林さん、そして、シガマッコウクジラの化石に感謝の気持ちを伝えたい。